

更新

持続可能な開発目標（SDGs）のモニタリングのための公的統計の理論と実務 Theory and Practices in Official Statistics for Monitoring Sustainable Development Goals (SDGs)				
対象国の条件：原則アジア太平洋地域の開発途上国、その他地域からも可能な限り受入れ				
研修コース番号：201984512-J002				
案件番号：201984512				
主分野課題：ガバナンス/統計				
副分野課題：				
使用言語：英語				
案件概要				
国際的に合意された統計基準、枠組み、方法論についての研修を通じて、持続可能な開発目標（SDGs）指標に関する基礎的な統計を作成するための国家統計システムの組織能力を強化する。また、この研修プログラムでは、直近の事例を紹介し、これら事例が国レベルの統計学的なビジネスプロセスを近代化させるためにどのように活用できるかを紹介する。				
目標／成果		対象組織／人材		
【案件目標】 持続可能な開発目標（SDGs）のモニタリングに必要な公的統計データと指標作成のために統計官の知識とスキルを向上させる研修を提供し、研修参加者の国家統計システム構築能力を強化する。		【対象組織】 国家統計部局；国家統計システムに携わる統計学的調査および研修を行う施または対象国の国家政府機関		
【成果】 1. 公的統計の作成に組み込まれた原則、手順及び体系の理解増進、並びに関連する専門技術の発展及び改善 2. 統計技術の理解とそれを適用する能力の増進 3. 統計目的に利用可能なデータ源、公的統計の作成、解釈及び提供に利用可能な技術に関する理解増進、並びにそれらの技術を適用する能力の向上 4. 持続可能な開発の概念、2030アジェンダ、SDG及び関連するデータ、統計及び指標に関する知識の増進及び理解の改善、並びにそれらを作成する能力の向上 5. 日本の公的統計及びSDG指標に関する知識の増進及び理解の改善		【対象人材】 上述の対象組織において少なくとも5年の勤務経験を有する初中級レベルの統計職員		
内 容		2019/8～2019/12		
<講義及び実習> 1. 公的統計の基礎：基準、フレームワーク及び手法 2. 開発アジェンダの目標、ターゲット及び指標のフレームワーク 3. 公的統計の作成、分析及びプレゼンテーションに係る統計理論及び手法 4. 近代化された統計組織における質の高いデータ及び公的統計の作成、分析及び普及のための手法及びツール 5. 統計コアセットのための統計的ビジネスモデル：人口、社会、経済及び環境 6. 公的統計専門家のコアバリュー及び能力：公的統計の基本原則		本邦研修期間		
		担当課題部	産業開発・公共政策部	
		所管国内機関	JICA東京（産業公共）	
			関係省庁	総務省（総務）
			実施年度	2019～2021
主要協力機関	調整中			
特記事項及びホームページ	本研修は、JICA/SIAPの共催により実施される。（SIAP URL） http://www.unsiap.or.jp/			